

## 2021年4月までの東京都食中毒発生状況（速報値）4月30日現在

2021年4月末までの都内の食中毒の発生状況が、東京都から公表されました。

4月の食中毒速報値は合計3件で患者数は8名でした。

### 1 事件数（4月分までの累計）

29件（2020年同期44件、2019年同期46件、最近10年間の同時期44件）

### 2 患者数（4月分までの累計）

198名（2020年同期385名、2019年同期359名、最近10年間の同時期822名）

### 3 死者数（4月分までの累計）

0名（2020年同期 0名）

### 4 月別食中毒発生状況

#### （1）2021年月別発生状況（速報値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	4	7	15	3									29
患者数 (人)	5	147	38	8									198

#### （2）2020年月別発生状況（速報値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	11	19	11	3	5	6	10	7	8	14	14	6	114
患者数 (人)	66	250	64	5	75	9	28	2,558	16	143	130	15	3,359

#### （3）2019年 月別発生状況（確定値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	9	11	16	10	7	11	10	7	7	11	9	11	119
患者数 (人)	81	34	154	90	20	35	25	113	113	61	52	87	865

#### （4）最近10年間の月別発生状況（2020年までの平均値）（速報値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	12.3	10.7	11.4	9.9	9.2	12.0	10.2	10.2	12.4	10.5	8.7	12.5	130.0
患者数 (人)	271	237	136	179	86	111	56	364	96	90	94	218	1,937

## 5 病因物質別発生件数

4月の原因物質別の発生状況を見ると、カンピロバクター食中毒が2件、次亜塩素酸ナトリウムの混入が1件でした。ノロウイルス食中毒の発生が昨年と比較しても極めて少ないことが特筆されます。

アニサキス食中毒については、速報では報告がありませんでしたが、報道などでは都内でアニサキス食中毒が数件報告されていますので、来月分の報告ではアニサキス食中毒が計上されると思います。

		令和3年（2021年）				令和2年（2020年）					
		4/1～4/30		累計(4/30まで)		4/1～4/30		累計(4/30まで)		累計(12/31まで)	
		件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)
ウイルス	ノロウイルス			4	33			13	124	14	131
細菌	カンピロバクター	2	6	4	12			3	16	21	177
	黄色ブドウ球菌			1	21			2	22	4	29
	ウエルシュ菌			1	112			1	184	4	336
	セレウス菌									1	4
	腸管出血性大腸菌									1	10
	毒素原性大腸菌									1	2,548
	カンピロバクター及びサルモネラ							1	3	2	6
寄生虫	アニサキス			17	17	2	2	21	21	56	58
	シュードテラノーバ							1	1	2	2
	ユニカプシューラ・セリオラエ									1	4
化学物質	ヒスタミン							1	11	3	47
	次亜塩素酸ナトリウム	1	2	2	3					1	1
自然毒	植物性自然毒					1	3	1	3	1	3
	動物性自然毒									1	1
調査中											
不明										1	2
合計		3	8	29	198	3	5	44	385	114	3,359

## 6 原因施設別発生件数

原因施設別発生状況は下表のとおりです。

4月の原因施設はすべて一般飲食店でした。

昨年は、飲食店が原因の食中毒が大幅に減少しました。

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出される限りこの傾向は続くと考えますが、今後の状況を注目したいと思います。

		令和3年（2021年）				令和2年（2020年）					
		4/1～4/30		累計(4/30まで)		4/1～4/30		累計(4/30まで)		累計(12/31まで)	
		件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)	件数	患者数 (死者数)
飲食店	一般	3	8	22	60			29	118	74	277
	仕出し			1	21			2	198	3	2,746
集団給食	要許可			1	112			3	42	7	155
	届出							1	7	3	124
	届出対象外									1	7
魚介類販売業				1	1			3	3	8	8
飲食店（一般）、そうざい製造業								1	10	1	10
飲食店（弁当）、魚介類販売業										1	1
つけ物製造業										1	10
家庭				3	3	1	3	1	3	4	6
不明				1	1	2	2	4	4	11	15
合計		3	8	29	198	3	5	44	385	114	3,359

(注)飲食店の「一般」には、一般飲食店、すし屋、弁当屋、そば屋を含む。

## 7 食中毒のことや発生状況についてもっと知りたい方は

- (1) たべもの安全情報館 知って安心～トピックス～(東京都福祉保健局)

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/anshin\\_topics.html](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/anshin_topics.html)

- (2) 東京都の食中毒発生状況

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/tyuudoku/index.html>

- (3) 全国の食中毒発生状況（厚労省）

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syokuchu/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/index.html)

## 8 元食品衛生監視員のつぶやき

2020年の全国の食中毒統計について、先月は、病因物質別の発生状況について、全国と東京都の比較をしました。

今月は、2020年とそれ以前の比較をします。

社会的な現象として、この2020年とそれ以前の違いは、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの有無です。これが、食中毒の多くを占める飲食媒介感染症にも影響を与えているのかが興味のあるところでは。

まず、病因物質別の食中毒発生状況の推移のグラフです。

ノロウイルス食中毒とカンピロバクター食中毒の減少傾向が2020年に顕著となっています。

ノロウイルス食中毒は、2016年ころから減少傾向が続いていましたが、2020年はとうとう100件を下回りました。

カンピロバクター食中毒も2018年以降に減少傾向が見えますが、2020年は前年よりも36%減少しました。居酒屋での鳥の生食が原因の多くを占めていたことを考えるとなぜ減少したかが見えてくるような気がします。

一方、家庭でも普通に喫食される刺身に由来するアニサキス食中毒は、昨年よりむしろ増加しています。

次に、施設別の食中毒発生件数の推移を見てみます。

飲食店と家庭以外はほぼ横ばいですが、家庭の食中毒が2018年から増加傾向を見せており、逆に飲食店の2020年の現象が顕著です。

そこで、2020年とその前3年間の平均を比較してみました。

これを見ると、飲食店の落ち込みが顕著であることがよくわかります。

カンピロバクター、ノロウイルス食中毒の減少と飲食店の現象が極めて顕著に表れたのが2020年ということになります。

これは、食品衛生の面からは喜ばしいことなのですが・・・

